

2016年2月5日(金)

みらいへの扉



高等特別支援学校 支援部 第79号

“厳しさ”の正体

私がこの学校に転勤してきたばかりの時のお話です。

新入生のひとりが「お弁当のお箸を忘れました。」と職員室に取りに来たので、何の気なく「どうぞ。」と渡しました。その前に勤めていた養護学校（特別支援学校の前身）でも同じようなことがあったので予備で割り箸をストックしていたのです。

近くのベテランの先生にこう言われました。

「借りたものは、返さななあ。」

「割り箸ですか？」

一瞬、割り箸の1膳ぐらいで“厳しいなあ”と思いました。

「そうそう。これからこの先はずっと“借りた物は返す所”で生活していくんやから。」

……職場でお箸を忘れた時、自分ならどうしているでしょう？

誰かに割り箸を借りて、次の日「助かりました。ありがとうございます。」と言って返す。といったところでしょうか。

職場で誰かがお箸忘れたと言ったら、どうでしょう？

予備があったら貸します。お互い様ですよ。

それが返ってこずに、何回もあったらどうでしょう？

……次も気持ちよく貸してあげよう、とは思えなくなります。

自分は親切のつもりで割り箸1膳くらいあげようと思ったことを考え直しました。それが続いたら“もらう事が当たり前”になってしまいます。これは社会に出てから通用する“当たり前”ではありません。目の前の生徒も、「助かりました。ありがとうございます。」と言って返す人になってほしいと思いました。

そう考えると気持ちがキュッと締められました。目の前の生徒達の“当たり前”を育てるのは周りの大人。今まで何となく行動していたことも、これからのこの学校の先生として“何をするか”と同じ重みで“何をしないか”も考えたいと思うようになりました。

でも根がおせっかいなのでしょう。いろいろ手出し、口出ししたい事を我慢するようになってはいるのですが、ついやってしまうこともあるかもしれません、あ、言い訳ですね。

保護者の方も、今までつい手助けをしていることで見直す事はありませんか？ここはもう任せてみようと、将来のために少しずつ手を引くことも自立の手助けになっていきます。ここぞという時だけ手を出せるよう“目は離さず、手を離す”ですよ。

当の生徒に食べている時「割り箸返してね。」と声を掛けると、「はい。」と良い返事が返ってきました。

そして昼休みが終わる頃、「先生持ってきました。」と使い終わった割り箸と包み紙まで持ってきました。言われたことを真面目にしようという気持ちは伝わってはくるのですが。うーん、伝えつつも、伝わらない事もあります。

「うーん。先生これ渡されても困るなあ。お家に新しい割り箸はありますか？」

「あります。」

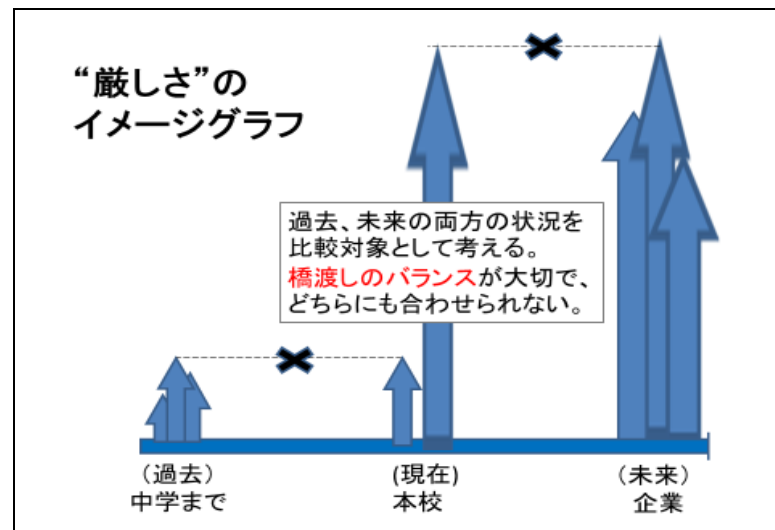
「じゃあ、それを明日持って来てください。」

「はい。」

こちらが分かりやすく言うことも支援です。が、相手が何を言いたいかわかる感度を、経験を通して上げさせていくことも支援です。

一回でも新しい割り箸を返す経験があれば、次はきっと大丈夫。

“借りた割り箸を返す”行動に必要な練習ができました。割り箸だけではないはず。社会に出て困らないように、学校でいっぱい失敗して勉強して行って下さい。



生徒ごとに状況は違うので、過去と未来は3本ずつで表示

“高等特別支援学校は厳しい”と外部からよく聞きます。

皆さんも入学を意識したところから耳に入ったことがあるのではないのでしょうか？今、その思いはどうなっていますか？



私も冒頭でお話したように最初は思っていました。しかし学校に慣れて行くにしたがってその思いは薄れてきました。

何がどう変わっていったのでしょうか？

それは私が目の前の生徒達の“未来”をイメージできるようになったからだと思います。……現場実習やその前後の学習を通して。卒業生の話聞く機会である進路セミナーで。ハローワークを交えた進路相談で。よく行くスーパーや家電量販店で他の従業員の方々と同じように働く卒業生の姿を見て。

左下のグラフを見てください。

中学校（中学部）から本校に入学して、企業就労を目指す生徒達の歴史を、“厳しさ”という点からみたイメージをグラフにしたものです。どんなに厳しい事を求めている中学校でも、企業より厳しいということはありませんよね。

“高等特別支援学校は厳しい”とは本校とどこを比較した言葉なのでしょう？私にとっては、本校と以前勤務していた養護学校を比べたら“厳しい”ということになるでしょう。しかし、そこと比較することは目の前の生徒達にとって何の意味もないことです。

生徒達の今までの歴史を見れば、中学までの状況と比較する事があるでしょう。しかし、過去とだけ比較し続けることも意味はありません。左図のように過去と未来を見据え、生徒達に無理のない段差を超えるようにするための現在なのです。本校の“正しい厳しさ”はきっと外部の方々には分からない感覚かもしれません。

現在のグラフが未来を超える長さになった時こそ“不当な厳しさ”ということになるのでしょうか？

生徒達はどう考えているのでしょうか？一度「学校厳しい？」と聞いてみてください。ステキなお返事があったら、是非連絡帳を通して支援部までお知らせ下さいね。